

大量消費社会の到来



* 行政資料 60企画17「消費生活の知恵」・同60企画21・22「消費メモ 合理的な電気と燃料の使い方」・「消費メモ 食品の添加物問題」

解説

高度経済成長により、国民の所得は増え、暮らしが便利になりました。1950年代末には白黒テレビ・電気洗濯機・電気冷蔵庫が「三種の神器」ともてはやされ、その10年後にはカラーテレビ・自動車・クーラーの3Cが「新三種の神器」となりました。しかし、その一方で、誇大広告・欠陥商品・有害食品・薬害など、消費者の生活をおびやかす問題も起こってきました。そのため1968（昭和43）年、消費者保護基本法が定められました。

写真は、消費生活に関する正しい知識を県民に広めるために山口県が作成したパンフレットです。「消費生活の知恵」（写真左）では、「3C時代の消費者は、自らの3C、すなわち、キャラクター（性格、好み）、キャリア（経済、人生）、キャパシティー（能力）を十分心得て大型消費革命と称される時流に対抗する力を備える必要があります」と、消費者の自覚を促しています。また、「消費メモ」（写真下）では、「合理的な電気と燃料の使い方」「食品の添加物問題」「食料品の選び方買い方」などのテーマがシリーズで取り上げられています。



* 1970（昭和45）年8月、消費生活について正しい知識を広め、苦情や相談に応じる地域拠点として山口県消費生活センターが設置されました。関連する資料として「消費生活センターのしおり」（リーフレット昭和45-1）などがあります。